



ツアー仲間たち。カザフスタンからの参加者。お酒にめっぽう強い



スターリン博物館。スターリンはグルジア生まれ

スカレーター手前の窓口で購入し、「ピツ」とやればいいから簡単だ。
 2 駅行けばトレンディスボットとして人気の高いマルジャンニシヴィリ駅があり、鉄柵のテラスが張り出す重厚な建築物が居並ぶ様子は、荘厳で美しい。さらにもう1駅行けば、景色がガラッと変わって巨大生鮮野菜マーケットが駅前を埋め尽くす。さらにその先の駅は……と、非日常の中に身を置くと、欲が出て行動範囲を広げがちだが、歩き疲れて引き返す体力がないとなれば、「配車アプリの「B o o t」



駅地下にあるスーパー、「GOODWILL」。ワインの種類の豊富さにびっくり



荘厳で美しい建物。黒い鉄製のテラスが目を引き



ホテルから隣町に行く途中で、毎朝開かれる青空市

の世話になるといい。宿を登録してさえおけば、どこから乗っても間違いない。帰りが着く。しかも料金が驚くほど安い。日常の買い物は、歩いて5分のリパティ・スクエア駅地下のおしゃれなスーパーでも揃うが、食事は断然、安くてめっちゃくちゃおいしい外食三昧をおすすめする。
 町歩きに疲れたら、ツアー観光でコーカサスの山麓や歴史的遺跡に足を運んでみよう。何せ北海道程度の広さの国だ。ある日は水のきれいな保養地のボルジョミやスターリン博物館がある。ゴリまで足を延ばし、またある日は、旧都のムスヘタへ。さらにワイン作りで有名なカヘティでのワインの試飲しまくりツアーは、絶対に外せない。車窓に山肌を行き交うヒツジの群れを見つめることもしばしば。春

になり、夏になれば、その山肌は綺麗な花で覆われるに違いない。雪で通行が不可だったが、ジョージア軍用道路は必見という。
芸術の宝庫、ジョージア
 ジョージアはバレエでも有名で、グルジア国立トリシ・オペラ・バレエ劇場で日本人の若手ダンサーらが活躍中とあれば、何とか日程を調整して鑑賞したい。ルスタヴェリ大通りに並ぶ国立博物館、ナシヨナルギヤラリーも見逃してはもったいない。私はコンサートホールで庄巻のジャズコンサートを満喫したが、ジョージア人の歌のうまさは格別に思えた。

忘れられない国になったジョージア

人々は物静かで穏やかで、信

頼に足る印象を持った。地元の人とのやりとりはジョージア(グルジア)語が主流だが、通じない相手(つまり私のこと)にも親切だ。ある日、ケーブルカーに乗るべく、乗り場に向いた時のことだ。午後1時からの営業開始時間より相当早く着いた私に、切符売り場のお婆さんは「1時から」とどう伝えるかで頭をひねった。どうしたかって、やおら計算機を取り出し、「1」の数字を打ち込んだから、なるほどだった。実際は英語を操る人は想像以上に、大抵のことは何とかなったから心配はいらない。「知らない国」が知る国になって、まだその興奮が冷めやらない。それなりに身構えて行った



ワイン作りで有名な町、カヘティ。クヴェグリという大きな窯(かめ)を地中に埋めて発酵させる、伝統的な製法

のに、何だかスツと気持ち溶け込んだから不思議だった。この国の歴史の深さ、文化の厚み、ワインのおいしさ、そして物価の安さのどれをとっても、ロシアの安さのどれをとっても、ロシアがなさそう。ソ連の支配、内戦、貧困を知らない世代が国づくりの担い手になり始めて、さらに何重にも味わい深い国になる日も近い。また行かねば。

私のロングステイ家計簿

(1カ月)

住居費、家賃(55㎡)	1,385 GEL
ホテル(1泊朝食付き)	143~172 GEL
長期滞在用アパート(Airbnb, 1泊)	34~72 GEL
交通費	
航空運賃	
カタール航空(ドーハ経由)	2,984 GEL
タクシー	
市内移動	5~8 GEL
市内から空港	20~30 GEL
交遊費	
1日観光(トビリシ、ゴリ、ウプリス、ツイヘ、ボルジョミ)	70 GEL
カヘティワイン試飲ツアー	60 GEL
個室温泉	30 GEL / 1時間
公衆浴場	3 GEL / 1時間
その他(日本円からの両替は難しい。ドルで持参し、現地で両替する。クレジットカード決済が一般的)	
グラスワイン	5~8 GEL
(合計月額 約162,300~165,200円)	

*1GEL(ラリ)は約34.95円(2020年7月現在)